4　153
106
安東
2/3

水平運動パンフレツト

第一輯

全國水平社解放聯盟解体に就いて

五月九日

内務省
5.5.9
大阪
内務
5.5.9
特 501
45

荊冠旗社版

1

0038887000

0038887-000

特５０１－４５

全国水平社解放聯盟解体に就て

小山荊冠・著

荊冠旗社

昭和５．５

AGH

この著作物は、著作権者不明のため、著作権法
第６７条の規定に基づき、平成１２年３月２日
けで文化庁長官の裁定を受け使用するものです

函 安寧
號 213
永久保存

函 社会
號
永久保存

國立國會圖書館
51.9.16

古き文明は既に共行路を疾走し終り、僞瞞と暴戻なる不合理を一掃する輝ける使命を持つ新しい太陽は東雲を衝いて登りつゝある。

それはやがて此國に於ける反動とエセ解放運動を克服するであらう。被搾取者被支配者、尙被差別者である我等は此重壓をハネ返して新たなる決意の下に荊の道を一路解放へ、解放の彼方へ！と進む時である。

さあれ、我等は今少數である。誘惑と苦惱焦燥は幾多の先輩同志を戰列から奪つて行つた。離れ行く同志を思ふ時我等の責や重且つ大である。凡ゆる强權主義者と反動主義者を抹殺せよ。

一九三〇、四、下旬

荊冠族社同人

松谷功

山岡喜一郎

村上義夫

1082949

特501
45

全國水平社解放聯盟解體に就いて

小山荊冠

(一)

私は全國水平社解放聯盟の解體に就いて語る前に、解放聯盟は如何にして生れたか？と云ふ過去に溯つて詳述することが此の際最も必要であると思ふから、先づ水平運動史を語り而して後、第六の項に於て『解放聯盟創立より解體まで』に就いて語ることにする。

如何に不合理なりとは云へ千數百年の長い間、人間であり乍ら人間たる事を許されず、奴隷として蓄生としての境涯をよぎなくされ、時と所に於て直接間接に虐殺され『死の自由』のみを與へられて來た束縛されし穢多の子の來るべき日本に於ける社會〇〇に、大きな役割のあることを知る支配階級の、奴隷中の最後の奴隷たることを承認する事の條件の下に行はれる、恩惠的改善事業の一切を投げ返して人間本然の要求たる自由と平等、人間權奪還の爲めに『奪はれたる魂を還えせ！』

自由を還えせ！」と京都岡崎公會堂に、天も裂けよ地も覆へれよと雄々しくも反逆の叫びを揚げ支配階級に向つて鬪爭を宣言したのは今を去る八星霜の過去であつた。

そして其の夜〇〇料亭に於て晩餐會を開き

「お前も奴隷か？俺もエタの子だ！賤民だ！被支配者だ！」

と、互に抱き合ひ熱い涙を流し、呪はれた冷たい人生を語りつゝ、解放戰線への同志である事を誓ひ合つた大正十一年三月三日こそ、人類歴史の續く限り、世界解放運動史上に染めたエタの燒印を投げ返えす解放聖戰の紀念日である。

エタの子の解放の前に塞がる一切の障害物を蹴飛ばし、それを阻む全べてを燒き盡さんとして走る猛火の如き運動は、三歳を經ずして燎原の火の如く燃え擴がり、全國津々浦々到る處にエタを作り奴隷を産み出す支配機能の一切の權力と鬪つた。

第二回大會―大正十二年―當日、支配者を呪ひ强權に反抗する俺達兄弟は、差別觀念を補助する〇〇に對し勇敢にも服を引き裂き帽子や劍を河中に投じた事もあつた。

而して尊き犧牲者を牢獄に送つた。

吾々はエタ解放の前にはどんな大きな犧牲をも決して惜まなかつた。

奈良縣事件あり、世良田事件、愛知事件、高崎事件、和歌山事件、福聯事件、其他色々な事件の

鬪爭に、數十と云ふ餘りにも大きな犧牲を拂つたが、尙ほ且つ奮然として「吾等は人間性の原理に覺醒し人類最高の完成に向つて突進す」と高らかに宣言した。

當時、露西亞のプロレタリアートは血を流し屍を積んで、暴虐なる支配者の强權を地上より掃蕩し、陋劣なる中央集權的階級制度を根底より覆へして革命を成就した。

然るに全世界を擧げて資本主義各國は、やがて來らん自國の革命の猛火を恐るゝ恐怖病から、虐げられたる露西亞の民の暴動を賞讃する事すら禁じてゐた。

而しながら吾が水平社にあつては、露西亞の革命が、世界の獸として虐待された猶太人によつてなされた事に就いて、來るべき日本に於ける、限りなき支配と搾取の不合理なる社會〇〇は、日本の四つの足、獸とされて來た穢多の手によつてなさねばならぬ事を知ると同時に、虐げられたるものゝ呪を返えす反逆の必然たることを主張し、それを阻む支配階級に向つて徹底的鬪爭を宣言して「勞農露西亞承認の件」を決議した。

而して一方に於て、政治の正體を曝露し、政治運動の及ぼす害毒とその毒素を指摘して「一切の政黨政派を超越する件」を決議し、驀らに「人類最高の完成に向つて突進する事を宣言し、その解放過程に於ける」吾等に對しエタ及び特殊部落民等の言行によつて侮辱の意示を表示したる者に對し徹底的の糺彈をなしつゝ解放の「よき日」に向つて邁進して來た。

之即ち水平運動本然の闘爭目標であり精神であつた。

其の後吾等は露西亞の國情を調査した處が、プロレタリアートの赤き血を流した露西亞革命も、ボルセビーキの陰謀の爲め蹂躙せられ、遂には中央集權的國家資本主義へ逆行し、徒らにボルセビーキの輩の爲め漁夫の利を占められ倍舊のドン底生活に喘いでゐるといふ事實を知つた。

私は此處に於て解放聯盤の運動が全國水平運動即解放聯盟といつた一元的關係あるため、水平運動の目的と眞髓—即ち本流を說明する事とする。

（二）

エタの存在は、一ッの社會內に征服階級——支配階級——と被征服階級——被支配階級——即ち奴隷階級の二つの異つた利害關係を有する階級の存在を明瞭と語るものである。

この賤民エタの發生は私有財產を逞しうせんとする掠奪者によつて、原始共產主義社會の平和の夢は破られ、人間本然の互助本能——相互扶助本能——の生活より、忌まはしい闘爭の歷史を繰返へす闘爭本能への生活の一步を踏み出し、而して先住民族と移住民族との自然食物の爭奪の闘ひによつて生れた優勝者と慘敗者とが、優勝者は劣敗者を奴隷として之れを財產とし所有する〇〇——〇〇——となつて弱者の上に君臨し、自ら貴族の尊稱を遊んじ、闘ひに敗れたるものも亦、財產

として所有され酷使されるところの奴隷となり、忍從を強ひられ〇〇を敬ひ自らも奴隷——被支配者として卑下するに至つた。

此處に於て吾等特殊部落民が今日まで虐殺され、惱まされて來た差別觀念の發生、征服者的優越念、排他的差別觀念及び卑下の觀念の發生根本源泉があるのである。

故に差別觀念發生の要素を孕む處の〇〇、被支配の闘爭〇〇の社會に於てのみ差別問題は解決されるものである。

それは即ち自主、自治なる社會、自由聯合主義組織の社會に於てのみ實現し得らるゝものなる事の最も有力なる、闘爭目標である。

然るにマルクス及びマルクス主義者は此の原始時代の事實を無視し、差別觀念の發生源泉を隱蔽して『爾來人類の歷史は闘爭の歷史である』ここで、而も自已が支配者たらんとして、人類に血生臭い闘爭を永遠に繼續させんとする、實に恐るべき人類の敵である。

奴隷制度の初期時代には、工業的生產者として手工業に從事する奴隷が奴隷中の賤民として賤しめられたものが、中世に至つて屠殺の業を營む者を以て賤民とし穢多とされ、そのエタの存在が今日に至つたものである。

斯くの如くして社會は二つの判然として異つた分野に別れ、支配者たる〇〇は自已の〇〇財產を

蓄積せんが爲め、よりよく奴隷を搾取せんとする搾取經濟組織を打ち立て、笞の鞭を持つて奴隷の○○と搾取に勤しんだ。之に反して酷使され搾取され、鞭打たる・奴隷はこの不自然な而かも不合理殘忍なる暴君——○○○に對して反逆した。この奴隷の反逆こそ一切の精神的支配、一切の經濟的搾取の拒絕であつた。

かくて、社會は經濟の上にも富める者と貧しき者との二つの分野が生じ、兩者の鬪爭は絕え間なく續いた。

實に奴隷の反逆——解放運動——は自己が支配者搾取者たらんとする運動でなく、地上より一切の○○○○○○を絕滅する事に依つてのみ解放されるのであつた。

虐げられたる奴隷——プロレタリアート——の求むる社會こそは、忌まはしき人類の鬪爭を絕滅し、熱と光ある互助本能の發露たる相互扶助の『平和なる社會』『水平のよき日』でこそあつた。兩者の鬪は續いた。

中世に至り、支那、朝鮮よりの文化の侵入は印度よりの佛敎を傳來し數多の僧侶の簇出を見るに至つたが、畢竟、貴族佛敎として○○○を助け搾取の補助者となつたに過ぎなかつた。搾取の續く限り、○○○○の續く限り奴隷の○○は續いた。

奴隷の反逆が嵩まれば嵩まる程、○○○はその征服に努力した。一方に於ては、今日政府が部落

民に對する諸官廳使役、秀才育英事業と同じく歸順政策、懷柔政策を以てその○○を宥め、一方に於ては有識階級——此の時代の有識階級は僧侶——僧侶の惡魔的智能を以て諦めを說き、忍從を敎えた。

如何に敎へられたとて、如何に諭されたとて、マザ〳〵として繰返へされる現實の苦惱は、尙も激しい奴隷の解放要求の反逆運動を釀成するのであつた。

支配階級の懷柔政策と、宗敎的○○の無氣力となつた時、又もそこに備えられたるものは『笞の鞭』であつた。

掟——發達せる今日の○○——を設けて笞の鞭を打ち、白洲を設け、牢獄を造つて之に○○せる奴隷を繫いだ。

此處に於て○○○○○の必要によつて生れたるものが法律、裁判、○○であつて、宗敎は奴隷の○○を痲痺せしめる阿片としてのみその生命を保ち、共にその發達が今日に至り全く完全そのものとなつたのである。

即ち今日の資本主義代議政體なるものは、それらの諸制度の最も完備せるものにして、支配搾取の階級にとつては此の上もなき金城鐵壁である、

而してその歸順西瀋的政策——議會主義——によつて集められたる人々によつて無造作に造られ

たる「法律」によつて、今日の社會に起る一切の事實が解決處斷されて行くのである。

抑々、政治が搾取經濟組織の上部構造であるとはその謂である。

此處に於て、二つの階級のなす處の二つの運動は必然的にその目的を異にし、一者より搾取せんが爲めの政治運動であり、一者その搾取を拒絶する經濟運動とであつて、搾取を欲するものは政治運動へ、自由を欲するものは經濟運動へと互に別な道に進みつゝ鬪つて來たのである。

之即ち、政治運動と經濟運動の本質的に異る所謂である。

（三）

吾等は『自由』を欲する○○中の最後のヱタである。故に解放されんとする吾等の行動は、世界の資本主義國に亘り、世界的覇權を掌握せんとする裏切者の獸ではない。斷じて、殘忍の極みを盡したツアーに對して死を以て反逆した、世界の何處にも宿る土なき猶太のテロリズム――○○行動主義――の行動だ。

此の意味に於てのみ革命當時、勞農露西亞を承認したものであつて、今日の如く勞働者農民が倍舊の搾取と支配の爲めに惱まされ。苦しみ悶えてゐる國家資本主義なる強權ロシアを承認したものでは斷じてない。

新らしい支配者たらんとする者の色々に曲解妖說せんとする者あらんか、そは中央集權的階級制度の社會にこそ恐るべき○○○○イデオロギー。即ち優越的差別觀念の發生的要素を孕んでゐるこの事實、差別的觀念の發生根源を隱蔽して、全プロレタリアートの解放運動を裏切り、徒らに自已の支配慾を滿さんとする解放運動戰線に孕む毒素であり、似而非解放運動者であることを曝露するものである。

さればこそ全國水平社は解放運動を裏切る凡ゆる『政黨政派を超越する件』を決議し實行して、一路解放運動へ突進して來たものである。

然らば水平社の解放目標たる『人類最高の完成』とは何か？

それは宣言に示す如く、初めて征服されて支配され搾取される奴隷となつたその日より、祖先幾千年の長い間渴仰して來た『自由と平等』の相互扶助社會の建設それである。

互に助け合ふ相互扶助の社會に差別者と被差別者、○○○と被支配者、搾取者と被搾取者の存在すべき筈がない。

實に相互扶助社會に於てのみ人類は絕對的『自由と平等』の幸福に生きる事が出來るのである。

之即ち、水平運動とは？或ひは人類最高の完成とは？と云ふ問ひに對して『京都編』として第三回大會まで解放運動史上に殘した、水平運動本然の實體である。

然るに第三回大會以來、餌に飢えた幹部の輩は、議會に集る代議士――お金持――に袖乞ひを始めた。その事に依つて水平運動をして或ひは西に東に、右に左に互に離れ行く蟻穴を穿つてゐた。

當時、跳躍し行く日本勞働運動界にも、水平運動のそれと別な蟻穴を穿つたものがあつた。

それは似而非解放運動者による『解放運動の方向轉換』――所謂解放運動を止めて無產階級内の有識階級が新しい支配者になると云ふ變節論―を投げた事によつて、肉に飢えた狼の如く支配慾に燃えてゐたインテリゲンチャーや、支配者の絶對的權力の偉大さに憧憬の瞳さへ見張つてゐた學生ブルジョア教育の殼より脫し切れない分子や、新らしがりやの流行マルクスボーイは、一擧にして解放運動の陣營を去つて赤旗の下に集り、かくて鼎の如き思想戰の後、遂に勞働農民黨の組織を見るに至り、爾來勞働者と農民の頭上に君臨せしインテリゲンチャーは小さい支配と命令を發する様になり、赤旗の下に集る勞働者は再び重ねて別な支配者の奴隸たる事を誓つた。

時此處に至り、我國勞働運動も三大分野に分れ、三角型の内部闘争に浮身をやつす様になつた。

その中方向轉換派の率ひる勞農黨は、豫ねてから潜んでゐた士族の倖高橋貞樹をして水平社内部への宣傳に効果あらしめ、無產者青年同盟を結成なし、スパイ問題（私は未だこの問題の確證を握つてゐないが）を楯に墮落し行く幹部派、南、平野、泉野、米田、西光、阪本、櫻田、駒井等を水平運動戰線より放逐して青年同盟の木村、中村が京都にあつた全水平本部を（當時南は彼等が無斷

で持つて行つたと言つてゐた）大阪に遷し之に鎮座して、彼等の機關紙（リーフレット型）「選民」によつて解放されんとする部落民を飽迄被支配者として新しい支配者の下に買はれて行くやう宣傳した。

これが爲め、鐵の如き强固な結束の下に戰つて來た水平運動の戰線は、忽ちにして動搖し始め、自由の眞理を求むる純然たる水平運動者の外には、或ひは聖戰より追はれ行く人々の跡を追ひ、或ひは彼ボルセビーストの膝下に降伏を約するもの、續出する事によつて戰線は急激に衰退した。

（四）

斯くてダラ幹を排除した全國水平社は、大正十四年五月大阪中之島公會堂に第四回大會を開催した。

此の大會に於て、青年同盟は『無產政黨支持の件』を提出したが、水平運動の本流に棹して進む解放運動者に依つて、解放運動を裏切り政權爭奪に浮身をやつし、利用、煽動、攪亂せんとする彼等の腸黒き野心の、解放運動へ齎らす害毒を駁擊され、辛じて――議長の計らひに――保留となつた。

同時に規約制定案を提出し、德川三百年來地外方圏とされて自給自足によつて相互扶助の生活に

馴れたアナキスト的部落大衆をして、一片の命令書に依つて自己の支配のまゝに自由に活動せしめんとした。

本案とて、人間は元より支配すべきものでも又支配されべきものでもないとの徹底的反對があつたが、法規委員會と各地府縣代表とによつてなる擴大委員會に附托となり、同市北區稱名寺に於て徹宵して修正の上、新しい規約に從ふ事になつた。

その規約の組織の一節を摘發するなれば、各町村水平社は郡聯合、郡は縣聯合を組織するは至極自由聯合主義に見せかけ、その上部支配機能として中央委員會を置き、而して中央委員會に於て決定されたる事項は地方之を行ふ事になつてゐる。

之に就いても私は絶對反對した。青年同盟木村、中村、松田等は『撤回しても良いから』と云ひ出したが――此の時委員の半數以上は協議中寢込んだ爲め――議長外二三に依つて『折角出したものだから何んとか修正の出來る限りして』と云ふので全般に亘つて多少の修正の上可決された。

斯くして水平社内部に喰ひ入る戰線攪亂者の魔の手は、朧ろげ乍らも中央集權組織の一輪廓を畫いた。

然しながら此の大會に於て、日頃より水平運動最後の破綻を憂ふる反强權主義分子（關西京都菱野、關東東京深川、中部靜愛岐の各水平社及び全國各地水平社有志）等は公會堂の一室に於て解放

途上に水平運動を沈退萎縮せしめ、部落民をして新らしい支配者に賣らんとする變節者青年同盟一派の掃蕩の爲め鬪ふ『自由青年聯盟』を組織して機關紙『自由新聞』を刊行して一切の强權主義と戰つた。

この自由青年聯盟の活動は、逃避、落伍によつて滅び行かんとする水平社を引き止めると同時に全國各地の未開拓の地を開拓した。

一方中央委員會に於ても、執拗として政治運動の逆流を提唱する青年同盟と徹底的に理論鬪爭を行つた。

その鬪爭は熾烈を極め、青年聯盟の發展は、水平社内部に於けるボルセビーキ追從者の地位は全く危地に陷つた。

（五）

此處に於て、水平社内部にも一般社會運動のそれと同樣に强權主義、反强權主義、社會民主々義國家主義の思想的對立となつて、漸やく分裂の兆を示すに至つた。

それを憂ひた九州聯合會は大正十五年――昭和元年――五月福岡市大博劇場に第五回全國大會を擧行した。

此の大會に於て、一擧にして水平運動を無産政黨運動の一枝葉たらしめんとした青年同盟は總動員してゐた。

自由青年聯盟にとつては九州と云ふ丈けに地理的關係上不利な大會ではあつたが、同盟と鬪ふには充分の備へと實力とがあつた。

元より、水と油の統合は永遠に出來可き筈のものではないと同様に、兩者の固持する水と油の如き異つたイズムの確執は、全國運動の上に益々大きな破紋を畫き、華々しき論爭は此處にも繰返へされ、青年聯盟は敢然として似而非部落民高橋を放逐した。（大會決議）

此の大會に於て私の見たものは、傀儡として動く無産政黨運動者の中、三重縣の上田の如き『吾が縣に於ては全く解放されて差別事件も起らないので、水平社の必要もなくなつたから解散してもよい。尚今迄水平社に加入しなかつたものは勞働組合、農民組合なり無産政黨へ入いればそれで良い』と言ひ出した。私は、『然らば水平社の必要なき者が水平社の大會に用事はない筈だから速に歸れ！』と徹底的に駁撃したので、彼は消然として黙り込んだ。

然るに如何！其の後全國に稀な小學校の差別事件、警保局のパンフレット問題、代議士の失言問題等々の續出があつたではないか？

斯の如き現實にあり乍ら、部落民意識を忘れ徒らに政治運動に狂奔するは、之皆誤れるマルクス

ニズムの『無産階級層』より來る誤謬である事を曝露せしものである。

それと同時に水平社ボルセビーキの急先鋒――前身アナキスト――西光は私に對して『僕達も君達の主張するアナーキズムの理想社會(ゆうとぴあ)を目的とするものだが、仲々一時に理想社會の實現は六ケ敷いから過程として無産階級の獨裁を認めるのである』と云ふ詭辯である。

今一つは舊幹部派――泉野、米田、阪本――の人達が『吾々は當分何れにもつかぬ日和見組合で進んで行く』と言つた誠に便利な御都合主義である。

其の後無産者青年同盟は名を變へ勞農黨支持聯盟となつた。

反ボルセビーキの旗の下に集つた『膨大』なる自由青年聯盟の結合體は實に複雜であつた。

運動發祥以來今も尙ほ、束縛された全べての人類解放を目的とする――水平イズムの確固不拔なる信念の下に行動しつゝあるもの、水平運動を單なる民族運動と心得へるもの、自已の所屬組合の關係及び地理的關係によるもの、其の他種々雜多の原因の下に集まられたるものであるが、何れにしても反强權主義の旗の下に集まる大衆的集團であつた。

以上の如き莫然とした思想持主の含まれた大衆的集團は、當然精算されなければならない。精算の日は來た。

それは第五回大會を終へて僅か數日を出でずして、京都菱野の裏切りによつて、それに追隨する

京都に於ける人々の勞農黨支持聯盟加入である。

解放運動をして華やかなお祭騷ぎや、自己の賣名や支配の具に供せんとするもの、、當然本來の水平運動及び解放精神より離れて行くのは何れも皆同じ事である。

かくて菱野と政治運動迎合者とを失つた自由青年聯盟は決定的精算をすべく進展を續けて來た。

（六）

而して大正十五年――昭和元年――九月一日、即ち關東震災三週年紀念日、此の紀念日こそブルジョアー及び反動團體に取つても紀念ではあつたが、又我々プロレタリアー解放運動者に取つても忘れられざる、あの天災地變のドサクサに乘じて無產階級解放運動者故大杉榮氏を無政府主義者の故を以て○○せしめたる、暴虐なる○○○○○○の○○なる○○へ徹底的○○と○○を宣言すべき紀念日であつた。

自由青年聯盟内の闘爭分子は東京に集まり、此の最も意義ある紀念日をトして奮然として青年聯盟の精算をなし

一、ヱタの解放はヱタ自身の行動によらねばならぬ。

一、我等は（相互扶助の）自由聯合主義を基調とする。

一、差別と搾取に抗爭せよ！

一、融和運動を撲滅せよ！

一、政治運動を排撃せよ！

一、暴壓法令の撤廢。

等々其の他數項のスローガンを掲げ、ハツキリとした黒旗の下に躍進する事を全國に向つて宣言した。

之即ち全國水平社解放聯盟の創立である。

此の日の會合は、埼玉（森）東京（深川）長野（朝倉、高橋）靜岡（小山、小林、高倉、故杉浦）愛知（生駒）岐阜（北原）京都（梅谷）其他數名にして、當時、關西(山岡)では同志を糾合して先驅者聯盟を結成すべき計畫であつたが、彈壓の爲め防げられてゐたので、人を以て之等關西の同志と連絡を取り、長野、埼玉、東京府、靜岡、愛知、岐阜、三重、京都府、大阪府、廣島、山口の各府縣水平社有志の參加となり、機關紙『全國水平新聞』を刊行し愈々有機的活動をなすに至つた。

此處に於てか、全國水平運動は思想上に、變節、反動化、逃避、落伍等によつて傷つけられ分裂されて來たが、只々水平運動の本流を流れて來た思想運動は解放聯盟のみであつた。

悲しきプロレタリアの生活苦のうめきと共に其の年も暮れ、越へて翌年――昭和二年――一月十日解聯の同志北原の入營するや、岐阜聯隊内に頻々として起る差別事件に對して、『軍隊内の糺彈の自由確立』の爲め鬪つた。當局の無理解なる壓迫は遂に直訴事件を見るに至つた。

此の事件に依つて、一人の尊い〇〇を出した全國解放聯盟の活動は著るしきものにして、全國各地の水平社と相呼應して全國的運動を捲き起し、運動効果に大なる効果を齎らした。

差別は止まぬ！八月下旬に至り廣島縣安藝郡に第二世良田事件が起つた。之に依つて奮起した廣島縣水平社はその年も暮れ行く十二月に第六回全國大會を開いた。

この大會に於ける思想的鬪爭は實に物凄き迄に至り、毒牙を研いで待つてゐた〇〇階級の魔の手は、解散による彈壓をもつて運動を分裂せしめんとしたが辛じて免れた。

されど、全國水平社解放聯盟にも一つの惱みとひびとがあつた。それは解放運動の逃避的方向轉換論から來る無產階級内の政治運動家に禍ひされて、水平社のテロリズムが蔭を潛め、誤れるマルキシズムとブルジョア自由主義との爲めに、水平運動が今迄の勇敢さを失ひ、殆んど滅びつゝある狀態――解放運動の過渡的現象――の爲め大なる暗礁に乘り上げて了つた。

この運動の振はざる、思想渾沌たる過渡期には何れの運動も分裂に次ぐに分裂を以つてするものであつて、又解放聯盟もその分裂を餘儀なくされる時代に遭遇した。

それは、最近に於けるマルキシズムの圓本洪水から、流行病に冐され易い人間の弱點より來るプロレタリアー政治運動が、その赤旗の下に多數の大衆を引きつけ得た事から、此の際水平運動の挽回策として民主々義の旗を擔がんとする關東の人々の現はれたる事によつて、精算に次ぐに精算を以てされた解聯は又も洗禮の時に會したのである。

此處に於て全國水平社解放聯盟は大英斷を以つて、鐵の如き堅固なる信念の下に新しい陣容を整へる爲め第八回大會を期して解體したのである。

黑白相容れられざる原理から、奮然として解體した解放聯盟の前途には、部落民及び一般被征服階級解放運動の上に眞意義と、力强い信頼とを持たるべきである。

解放運動を語る私は言ふ！現實の大衆は嘗て支配者に冐されて反動の陣營にゐる。

現實を見詰めたる運動は反動運動である。

吾等の運動は反動運動であつてはならない。反解放運動であつてはならない。と同時に、農民勞働者――被征服階級の解放運動が『政治家』と云ふ支配者――征服階級――を作り出す運動であつてはならぬ。

さらば全國に散在する特殊部落民よ！

解放運動八年、日未だ淺くして再び奴隷の境地に滅び行くべくもなし。奮然として起つて決死的

に鬪はれよ！

而して我等は敵の誘惑の一切を拒絶すると同時に、同じ無産階級の陣營から現はれる紛らはしき似而非解放運動者の詭辯に迷はされず、解放運動の裏切者を我等の戰線より叩き出せ！

我等は常に收穫を數へる前に損失をも顧みねばならぬ。

斯くして勇敢に進む事によつてのみ我等は解放され、虐げられたるもの、全べて――全無產階級全被壓迫民衆――が『水平のよき日』即ち相互扶助の社會を禮讃する事が出來るのである。

鬪へ！鬪へ！

更らに又鬪へ!!

――一九三〇、四、二五 訂正――

（編　者）

祝發刊

喜田染物店
石川寫眞館
道旗醬油店
石田醬油店
木口瀬戸物店
葛原酒店
松田頒文堂

興正寺別院
妙慶寺
淨谷寺

奥山歯科院（譽田）
山元歯科院（長野）
谷川電療院（富田林）
歯科専門
宮崎醫院（富田林）

田守三郎兵衛
紺谷濃武夫

上田書籍店
塩谷文具店
西島化粧品店
白水軒
竹馬亭
菊水（長野）

越井醇三　勝山宇三郎

高井幸治郎　吉年宗兵衛

吉年寛一　大谷澄

創刊祝

著名醫院案内

今西醫院（新堂村）
高田醫院（貴志村）
仲谷醫院（富田林町）
山田醫院（中村）

廣瀬醫院（古市）
土屋醫院（譽田）
乾醫院（古市）
古川醫院（三日市）
小出醫院（長野）

岡村醫院（富田林町）
清田藥局（富田林町）
西野藥局（富田林町）
山彌藥局（富田林町）
遠山藥局（富田林町）

挨拶に代へて

荊冠旗社は今後此種のパンフレット類を毎月出版する。

本書も本年二月出版の豫定であつたが當事者の一人が一身上の都合で暫らく旅行してゐたので今日迄延びた。此段援助者及全國の同志に御詫する。

阪急電鐵株式會社
大阪鐵道株式會社
大阪電氣軌道株式會社
南海鐵道株式會社
新京阪電鐵株式會社
京阪電鐵株式會社
阪和電鐵株式會社

（定價金十五錢）

323451

大阪府南河内郡富田林町毛人谷二八一
編　者　山岡喜一郎
大阪府南河内郡新堂村新堂一、一一一
發行兼印刷人　松谷功
大阪府南河内郡富田林町毛人谷二八一
發行所　荊冠旗社
大阪市住吉區平野新町五丁目五ノ一五
印刷所　平和印刷所

昭和五年四月廿九日印刷納本
昭和五年五月一日發行